

## 街のおもしろ

〈その1〉ポートアイランド

ゴジラもびっくり  
吉っちょんランド

小関 三平（神戸女学院大教授）

大げさに言えば、ポート・アイランドは、ゴミで造った「夢の島」となっていて、世界に冠たる大事業である。

これをおいづいた知恵者は、ひよっとすると、「吉右衛門ばなし」の愛読者だったかもしれない。吉っちょんは、沼地に家を建てるべく一計を案じ、ヤグラを立てて「天に昇る」と叫んで村人を集め、まんまと地を踏み固めさせたとか……。ポート・アイとは？と聞いたら、A嬢が教えてくれた。

だが、もちろん、「KK・コーベ市」の知恵者は、住民のために頭をひねり、国土を四三六ヘクタール拡張したわけで、ずるい吉っちょんとはちがう。しかも、お子様相手の日本デイズニー・ランドとはちがいで、多目的かつ国際的な吸引力を持つ、建設技術の粋なのである。

じっさい、アホと煙りに似て高い所が大好きな私など、(二十一世紀のポート・アイが沈むまえに)一時でもいいから別宅を持てたら、と思う。海と船を眺めていると、心が安まり、おおらかにされるからである。

それに、開港百余年たつて港町・神戸に(やっつ)できた海辺の公園で、緑と花々のあいだを、腕組んで歩けるガール・フレンドでもいて、食事のあとはポर्टピア・ホテル三〇階のラウンジで踊れたら、「も、言うことナイ」のに……！



けれども、B嬢は、山側の眺めのほうがまし、とおっしゃる。なるほど、人工島の建物が、海の藍をバックに白く光るのは、明るくていいけど、まだ未完成のビルが目につき、樹々は幼なく、それに、幾何学的な構成と無機質な素材がSFチック・メカニックで、われらオジン族には、自然の温い肌ざわりに乏しいと感じられる。C嬢は、特撮セットにガオーッと現れるゴジラを連想する、と言う。先住民特有の皮肉とも聞こえるが、外来ヤングはよろこぶだろう。

ところが、オジンの哀しきで、わがポート・アイ初体験は、な、な、なんと、市立中央病院の、それも皮膚科と泌尿器科への通院だったのだから、およそ、神戸ハイカラのクリスタリズムに反して、みじめでシケている。

古いペピー・オイルをぬりたくり、目がさめると、「有名になっていた」バイロンならぬ、怪獣ポロボロ・フェイスだったり、前立腺がはれて早老、といううしいで、最新設備と聞いて行ったら、おジイさんで満員、しかも、なぜか隣りが婦人科で、採尿室のままで中年・熟年女性とならんで待つ……というチン体験をしたのには、マイッた。

けれども、この病院は、誇るに足りる。ホテルのモダンさと明るさは格別で、各科の受付は、若く美しく、



21世紀をめざす海上文化都市は「住み」「働き」「憩い」「遊ぶ」スペースに

やさしげなナスさんたちを、ボンやり眺めて待てるようにできている（？）のだから、スバラしい。

同様に、これまた最新設備の国際競技用プール兼スケート・リンクや、スマートなプラネタリウム館も、一見に値する。ユニバシアードに向けて来年完成のワールド記念体育館も楽しみだし、キムラタンの社屋もシックで、シャルレ・田崎真珠・ワールド・アシックスその他とそろい、ファッション・タウンが完成すれば、神戸ブランドの前途は洋々たるものとなり、買物好きの観光客のおかげで、税収もふえるにちがいない。

が、帆船・日本丸やクイーン・エリザベス二世号を間近に見て以来、私がいちばん気に入っているのは、ポート・ターミナルである。港の魅力は、なんたって異国情緒だから、船尾の文字を読んでさまざまな遠い国に想いを馳せるのは、子どもの将来にも役立つだろう。日本人は、おおらかさに欠け、セコすぎるのだから。

社会科学の盲点は、世界のトップ・レベルにある大コンテナ埠頭群である。ポート・アイ建設の知られざる最

大の動機は、これにこそあったはずで、約三分の一のスペースを占めている。船と沖仲仕の風情が消えたのは残念だが、どこの国から、どんな物が、どれだけ届いて、どこへどれだけ運ばれるんだろうと、コンテナの中味を想像すると、世界のひろがり和社会の複雑さが、実感としてわかる。

先日は、貿易促進センターの発展途上国産品展示場で、「ウルグアイ展」があった。見るからに楽しい人形や工芸品がいっぱいあって、南米通を自称する私は、ひとりでコーフンしたもののだが、第三世界にこそ、神戸は目を向けなければならない。

物にたいして人の集う場——国際交流会館の実績も、早くも意外にめざましい。六カ国語の同時通訳ができるのだから、たいしたものである。英・仏・独だけが外国語と思うのは時代遅れもはなはだしい、と平素から歎いていたところなのだ。あとは、日本の経済・文化の輪郭を手短かに把握できる資料センターと、芸能スペースが欠けるだけである。

## 街のおしゃべり

〈その2〉北野町

## ふと想わせる

## モンマルトルの丘

池上 忠治 〈美術史家〉

見方によれば、北野町・山本通かいわいは猫のひたいのように狭いところである。東西を新神戸駅から相楽園までとし、南北を生田神社から北野天満宮あたりで区切るとして、一体どれだけの広さであろうか。ただだか2キロ×0.5キロメートルぐらいの平面で、しかし、そこにいろんなものがぎっしりつまっている感じがするのが、驚きといえは驚きである。

戦前には多くの異人館や各国の領事館が立ち並んで、この辺は大変静かな所だったという。もともと私はいわば流れ者なので、そうしたことを体験的に知っているわけではない。とにかく新幹線の開通に次ぐ「風見鶏」の流行があり、さらにポトピアで拍車がかかって、あつという間に現今の姿になってしまった。何しろ近ごろは朝から何台もの観光バスがトアアロードを北上し、修学旅行の中学生や高校生がぞろぞろと異人館通りを歩くのである。

六甲で仕事を終えて帰るとき、私は二度に一度ぐらいのわりで2番の市バスに乗り、加納町三丁目で降りる。それから中山手カトリック教会や回教寺院のある道を西に歩くわけである。山手幹線やトアアロード、北野坂などよりもこの道の方がなぜか面白い。だが、もつと風情のあるのはむろん車の入れない細い道、たとえば一宮神社の横を上にいったり東天閣の裏手を下って山本通郵便

局へ出たりする小路である。こうした細道をほんやり歩いてみると、ふつとモンマルトルの丘の裏側を散歩しているような錯覚におそわれることがある。

ブティックのモードやアクセサリーには私は用のない人間だが、建物には興味がある。可もなく不可もないのは果庁やNHKやいくたけいさつ、どう見ても感心しないのは生田消防署のあるビルと専売公社で、総じて公共的な建物は個性に乏しい。いくつもある教会をあまり熱心に見ないのは、ひとつには私に信仰心がないからであり、またこれらが古いロマネスクやゴシックの本物に及びもつかないからである。すると、残るのはやはり異人館ということになる。

洋館といい異人館といい、また洋風建築と呼ぶこともあるかもしれない。明瞭な区別は知らないが、異人が作らせて住んだ洋館を一応は異人館と呼んでよからうか。そうした建物がずいぶん減ったということだけれども、なお今も相当数が残っていて、観光の対象となったり何かの店になったり、また今なおお客が住んだりもしている。

元来、これらは住居である。異人がオフィスと自宅と一緒にしていたことがありはしても、おおむねは誰か異人の一家がミナト・コーベに上陸し、居をかまえて数十年を、あるいは生涯を過した家なのである。したがっ



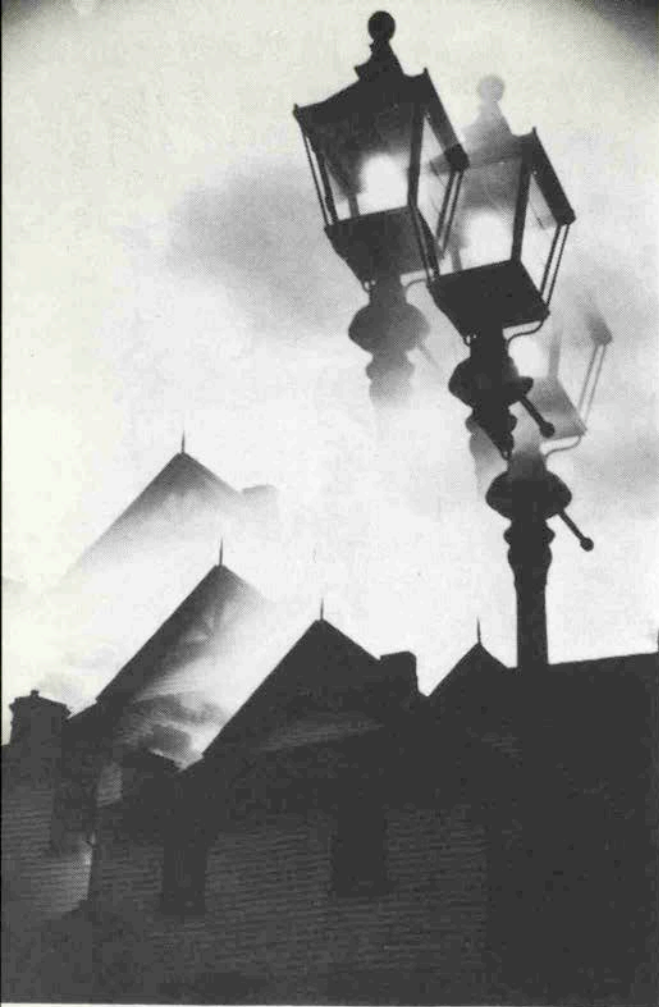
てそこには生活の匂いがあり、時の流れによる風化や持主の交替にもかかわらず、また歴史的風俗的な重みがありながらも、ありありと異人たちの日常生活をしるせるものがある。

どこが洋風かは明確でない。全体の様式は洋風で室内はテーブルにソファや椅子という形ではあっても、木材が多用されている点は日本風で、だが窓の切り方は折衷的、外側の板にベンギをぬるところはいかにもバタクさい。こうした本来は互いになじまない要素が共存している点も、おそらく異人館に独特の魅力なのであろう。

近ごろ目新しいのは、北野町にいくつかある複合商業建築で、いずれも建築家の安藤忠雄さんの設計になる。むしろ土地が狭い上に傾斜しており、今は高さの制限もあるという北野町・山本通かいわいなので、彼としては苦労は苦労だが知恵のしぼりがいもあるということになるのか。昨秋パリにいて画家の松谷武判さんに電話した結果安藤さん夫妻や助手の方々も一緒に夕食ということ

になり、翌夕は安藤さんの個展を見に行った。彼の作品にかかわるマケットや写真、ドローイングや設計図などがなかなか面白く、そうしたものをふまえてローズ・ガーデンやリンス・ギャラリーを見れば単なる物見遊山以上の面白さが湧いてこようというものである。

猫のひたいのように狭いと最初に書いたが、別の角度から考えてみて、これほどに楽しみの多くてコンパクトな都市空間が果たしてほかにあるだろうか。何をもって楽しみとするかは各人各様なので、ここでは町づくりや建物の面白さ以外のことを記してない。だが、たとえば少し山の方へと歩けば手軽な森林浴を試みることもできるし、六甲山の中腹や山頂から港の夜景を見おろすという、月並ながら倦きることのない楽しみもある。港は大阪湾の一部なのだが、そう書いてしまうと味もそっけもなく、やはりミナト・コーベと言って初めて何やらロマンチックで良いことがあるというふうな気分になるのが神戸の魅力ということになるのであろうか。



黄昏に浮かびあがるシルエットも美しい異人館

## 街のおしゃべり

〈その3〉須磨

## 黒猫夫人

## 須磨に色男を訪ねる

堀江 珠喜（園田学園女子大講師）  
（エッセイスト）

「須磨」から何を連想するか——それによってその人の年令（もしくは精神年令）や趣味がわかる。子供なら無邪気な声をはりあげて「水族館」とか「遊園地」とか言うだろうし、若者なら情熱的な夏の太陽が輝く「海水浴場」やロマンチックな宮廷風の「離宮公園」でのデートを思い出すだろう。またもつと趣を解する人間なら「須磨寺」や「松風村雨堂」といったところか。

私などは商売柄、あの百人一首で有名な「淡路島」かよふ千鳥の、なく声に、幾夜ねざめぬ 須磨の関守」という一句を思い浮かべるべきなのだろう。が、どっこいそこは可憐な（？）乙女（？）、同じ古典でも連想するのは色男の光源氏や平敦盛。まあ須磨の源氏の方は唐獅子の小林信彦氏にまかせておくとして、こちらはまず若くして悲劇の最期を遂げた敦盛ゆかりの地を訪ねるところにしよう。

敦盛にもつとも関係のあるのは須磨寺。これは山陽電鉄の須磨寺駅から北へすぐのところにある。あたりは住宅地なので静かだが、毎月二十日、二十一日の例祭は賑わうらしい。寺の門をくぐると低い桜の並木が続いている。さぞ四月の初めは見事なことだろう。花より団子という人には、参道に大師餅を売っている店がある。

並木の左側には「源平の庭」があり、馬に乗った敦盛や熊谷直実のブロンズ像が据えられている。正面の石段



を上ると、敦盛の青葉笛を保存する宝物殿と本堂がある。本堂の売店では仏教のマンガ本なども何種類か売っている。中でも面白いのは「地獄と極楽」で、子供に地獄の恐ろしさを教えようとするものであるが、極楽に比べて地獄は生き生きと描かれていて鬼なんかもカワイイのだ。本堂の脇には敦盛首洗池やその首を実験したときに義経が坐ったという腰掛松、少し離れて敦盛首塚があり訪れる者の哀愁を誘う。

ところが敦盛といえばNHKの大河ドラマで二十年近く前に歌謡界御三家の一人の舟木一夫、やや最近では梨園の御曹子、中村勘九郎が演じた。いずれにしてもかなりの二枚目だ。そこで私も当世風敦盛を捜そうとしたのだが、参道を横切る道で、バイクを暴走させる若者にぶつかりそうになっただけだった。

それにもめげず参道を下り、左手に少し歩いて松風村雨堂を訪ねてみた。ここは在原行平が召しかかえた松風、村雨という姉妹が、主人の帰京後にむすんだ庵の跡と伝えられている。行平が彼女らへの形見にと烏帽子と狩衣とを掛けたという松もある。「立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かばいま帰り来む」の松というわけか。この三人の物語は能楽「松風」や歌舞伎「須磨の写絵」の題材となっている。それにしても行平はあの業平の兄貴だけあって、さぞかし美男子であったことだろ

う。松風と村雨が姉妹で恋争いをするほどなのだから。今度は当世の行平捜しにさあ出発。山手へ行こうか浜の方に下ろうか。

松風村雨堂の前の通りは離宮道といい、これを上がれば離宮公園に至る。「離宮」という古風な名前がついてはいるが、噴水、彫刻が並び、芝生もよく手入れされたヨーロッパ調の公園だ。夏は夜九時まで開いているので、エキゾチックでロマンチックな夜の散歩が楽しめるだろう。残念ながら夜の情景は知らないが、健康的な昼間なら高校時代によく行った。ロングヘアに超ミニスカートというその頃としては当り前の姿で、友人達と子猫のように駆けまわって遊んだものだ。

今日は一人なので公園には向わずに浜の方へ。左手にちよつと行ったところの大きな建物はラジオ関西。その東側に昔風の情緒ある木造の焼き鳥屋「鳥光」がある。おなかもすっきり空いたので、もはや色気より喰い気とばかりに店に飛び込む。

「焼き鳥屋と知らず雀が飛んで来る」とは川柳好きの店の先代の名句だそう。この店ではおみやげ用も作ってくれる。須磨にはとりたてて名物といったものもなさそうなので、ちようどいい。まあここはもともと高級住宅地だから、観光みやげを求めるのは無理というものだろう。しかしせっかく素敵な屋敷が建ち並ぶのだから、そのイメージに合うように、一つ提案がある。コティが以前「ア・スマ」という香水を作っていた。この名の由来はわからないが、これをしゃれたブティックで売り出すのである。そうすれば当世の行平、敦盛達が姫君に歌のかわりに贈ることだろう。

食後、再び色男を捜しに海岸公園へ。海水浴のシーズンならばたくましいビーチボーイがうようよしているのだから、本日は幼稚園や小学校の遠足のチビちゃんばかり。とうとう色男には一人も会えず、仕方がないので「水もしたたる」オトコならぬオトトに会いに水族館へ足を向けたのである——ニヤアア。



須磨から舞子へ続く海岸線 フォト/小林政夫

## 街のおしゃべり

〈その4〉六甲山

## きたるべき

## 植物祭

季村 敏夫 〈詩人〉

みどりは、みどりのままにもえつきよ、

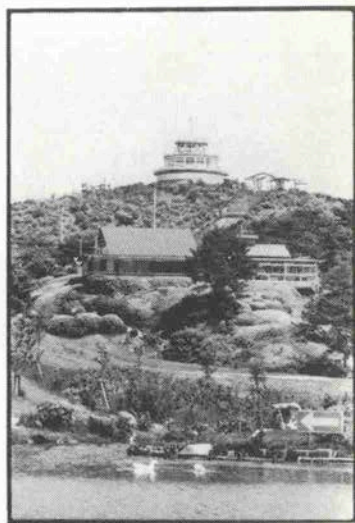
十代の終りごろに書き記した詩句を、ぼくは不意につぶやいていた。「われに五月を」の寺山修司氏逝去の報にひどく落胆しながら、胸は、こぼれつづけるニセアカシアの花の顆粒を茫然と受けていた。もう二度と通いかえることのできない息吹きならば、もう二度と通いかわぬ光ならば、このあわいの向うで、どうかそのまま一瞬にもえあがれ……。

ぼくらは、今どんな道を急いでいるのであろうか。帰り道、戻り道、途方に暮れる道のない道、転落への、道草ばかりの、永遠のさまよいの、どんな中途をぼくらはたどっているのであろうか。スクリーンいっぱい、みどりの鏡が乱反射し、網膜は粉々に吹きこぼれていった。

はかないことを夢みようではないか、そうして、事物のうつくしい愚かしさについて思いめぐらそうではないか。

— 岡倉天心・茶の本

ことしの五月、ぼくは、この天心の断片を何度も胸に刻みこんだ。草花のあわいに揺れる光が、胸に透きとおっていった。植物たちの自然な祝祭にくらべ、人間の意識が演じる営為などたわいもないほど作為的で、しかも



汚辱にまみれてしまっている。あまりに卑小であり、多くはそのことに気づきもしない。そうして聖性を絶たれ、もはやそれをと戻すことができないがゆえに、意識は、非望の果てに一瞬のエロスを夢見るのであろうか。植物たちのかさかなざわめき、人間的意識が紡ぎだす悉くを忌み嫌う高山植物と呼ばれるものは、一体なんなのだろう。今年で開園五十周年をむかえる、六甲高山植物園のカラマツ林の光と影をくぐりながら、しきりにぼくはかみがえていた。動物—か—か—か—というほくも、ただか進化した動物たちのなれの果ての一匹にすぎないのであるが、悲しき熱帯からいきなり捕縛され、檻のなかで死ぬまで自分の腐臭につきあわねばならない動物園の反自然的な光景は、異様といえばあまりに異様、これほど存在の不条理性を演じているものはない、河馬でも眺めてこちらも終日惚けるしかない。人間が人類として、猿から進化隔絶していった宿業ゆえであらうか。あの波立つヘモグロビンが悪を演じているのであろうか。それとも、人間の意識という奴が、原罪として背負う悪夢のひとつまなのだろうか。沈黙になびく植物の静謐にくらべ、今だにわずかな時の経過しかもたぬぼくらの意識の世界史は、すでに聖性を喪ったあと、不条理の累積のみが溢れている。ボードレールではないが、悪の華、むしろそう呼ばれることをこいねがっているようなたたずまいすら感じ

られる。高山植物の花々の表情は、可憐であり華麗、優雅であり繊細、しかもそれらは、開花がそく滅びであるという一瞬の交合のうちになされる。瞬時の、一瞬の、生と死の抱擁、しかもみえないところで、一切の人間のまなざしの届きえぬ断崖や絶壁でなされ、うちふるえる光の波とのエクスタシイは、ほくらに非望のエロスのようにおもえたりする。聖性を絶たれ、以後永遠に彷徨を余儀なくされるほくらが、更にそのうえ、この聖性の花々を人工のエロスとして栽培する、背理としての植物園をもつに至ったとは、これは何と表現すればよいのであろうか。深いといえ、これほど深い業もなからう。そうして、向うの花が、悪の花でなくてなんであらう。小さな小さな花々の息吹きが、もはや呼び求めることのできないほくらの聖性の痕跡を揺さぶるたびに、ひとびとはヒマラヤから種を持ち帰り、或いは今もなお深山幽谷をさまよいつづける。たかが花と、人はいうかもしれない。しかし、小指の爪ほどの高山の玲瓏を求めて、いつ

たい何人の蛮勇の叫びが、木霊となって闇に転落したことであろうか。美しい花などなく、ただそこにうちふるえる花の在るがままの美しさは、カエサルのもものはカエサルへ、神のものは神へ、美の極地に揺れる寒冷な空虚の地こそふさわしい。この花々が、王子動物園の頭上、わずか車で三十分のところであめられることの不思議なゆかしさに、ほくらは、神戸という風土の、残忍なまでの美への執着をみるおもいがするのであった。

しかもほくらはといえ、無遠慮に通過するもの、通り過ぎるもの、見すてていくものとしてしか係わることができない。このきたるべき植物祭を、ただよう胸は、どのように反響させればよいのであろう。花々をつつむ光のように、ほくらはたわむれることができるであらうか。開園五十周年の六甲高山植物園は、さまざまに行きかうひとびとの胸に、静かな問いを投げかけている。



ほくらは、今どんな道を急いでいるのであろうか。(六甲山カンツリーハウス)



ふれあいが好き

# ハロー！神戸

## ★ブリリアント・サマー

### ——イベントガイド——

★神戸に響き渡る神戸っ子の歌

神戸観光キャンペーン前夜祭

7月15日(金)

神戸国際会館大ホール

2年後に'85ユニバーシアード神戸大会をひかえ、神戸の町が積極的に動き始めている。今年も神戸観光のイメージアップのため、国鉄などのタイアップで集中的なキャンペーンを行なうことになっているが、オープンニングに神戸市民のリクエストによる「神戸の歌」が披露されることになった。ハイカラ神戸のイメージが歌手によって歌われ、ほほえましいものになりそうだ。当日の様子はNHK FM放送(録音)でも放送される予定。

陽気な神戸っ子たち! 当日は自らの手でオープンニングを盛りあげようではないか。

★モダン神戸を演出する

異国ムード

□北野国際まつり

7月23日(土)~25日(月)

北野天満宮

□異人館パーティー

7月23日(土)~25日(月)

各異人館

観光キャンペーンの一環として神戸の名所の一つ北野でももちろん華やかにイベントが繰り広げられる。「神戸といえば異国情緒ただよ町」というイメージを満喫できる国際色豊かな催しがいっぱい。外人の演出による民族舞踊モダンダンス、ジャズ、パントマイムなどが見られる「北野国際まつり」。外人をまじえての異人館でのシャレたパーティー。その他楽しいイベントで盛りだくさんの北野は今、燃えている。

★温泉町有馬からもハロー神戸!

□ありまのカーニバル

8月2日(火)~4日(木)

□湯けむりスクエアと蜃の夕べ

7月下旬から土・日曜日

□マウントROKOKOクリンハイキング

7月17日(日)午前10時ロープウ

エー有馬温泉駅下 駐車場集合

神戸の「奥座敷」湯の町有馬で

も、有馬温泉観光協会青年部の工夫をこらした企画が数多く予定されている。夏の避暑で訪れる人々の心に、さらに涼しい風を運んでくれそうだ。

★歴史のまち須磨を散歩

□源平を偲ぶ須磨古典の夕べ

7月23日(土) 24日(日) 於須磨寺

□須磨歴史探訪

7月31日(日) 須磨寺一帯

□ラジオウオーク清盛の夢を歩く

8月下旬(ラジオ関西で中継)

阪神間で唯一の海水浴場である須磨浦は、夏には親子づれ、若い人たちが賑わうが、須磨浦は万葉の歌人、江戸の知識・文化人にもこよなく愛されてきた。緑深い自然の探訪は、源平の合戦による美しくも悲しい物語を甦らせてくれる。また、一の谷の合戦での敦盛直実にまつわる須磨寺での一絃琴謡曲、御殿舞等も心にしみるものがある。

- △北野▽  
 ★チルドレンズフェスティバル  
 7月24日(日) ファミリア北野坂ハウス  
 ★異人館ハイキング  
 7月31日(日) 北野異人館街  
 ★北野異人館街かどコンサート  
 期間中数回 北野町中公園  
 ★異人館のあるまち北野・山本クリンキャンプ  
 8月7日(日) 北野・山本地区  
 △有馬▽  
 ★湯けむりスクウェアとほたるの夕べ  
 7月21日(木)～(日) ゆけむり広場  
 ★マウント六甲クリンハイキング  
 7月17日(日) ロープウェイ有馬温泉駅下  
 駐車場午前10時集合  
 ★納涼盆踊り大会  
 8月14日(日)～16日(火) 湯泉神社  
 △六甲・摩耶▽  
 ★あじさいホリデー「六甲山グルーム祭」  
 7月17日(日) 午前11時～午後12時30分  
 六甲山記念碑台  
 ★六甲山写真撮影大会  
 7月24日(日) 午前11時～午後3時 六甲各所  
 ★摩耶・六甲トワイライトハイイクとファイヤーストームの会  
 7月30日(土) 六甲山カンツリーハウス遊園地  
 ★六甲山真夏の雪まつり  
 7月31日(日) 午後1時～3時 六甲山カンツリーハウス遊園地  
 ★六甲山写生大会  
 7月31日(日) 午前10時～午後3時 六甲山カンツリー駅周辺  
 ★摩耶山一千万ドル夜景撮影会  
 8月6日(土) 午後6時半～8時 摩耶ロープウェイ山上駅  
 ★六甲山ファミリーキャンプ  
 8月6日(土)～7日(日) 六甲山カンツリーハウス  
 ★摩耶山盆踊り大会  
 8月8日(月) 午後6時～8時 摩耶ロープウェイ山上駅前公園  
 ★サンパ&ロックで盆踊り大会  
 8月14日(日) 午後1時～3時 カンツリーハウス遊園地  
 ★野性への挑戦  
 8月21日(日) 六甲山フィールドアスレチックコース他  
 ★六甲山牧場アルプス祭(スイスフェア他)



写真左から 花火大会 北野国際まつり 須磨寺

- 7月16日～18月31日 六甲山牧場  
 ★六甲山牧場デッサンスクール  
 7月31日(日) 六甲山牧場  
 ★六甲山「自然の家」ファミリー林間学校  
 8月10日(水)～11日(木) 自然の家  
 △灘▽  
 ★灘の冷酒まつり  
 7月20日(水) 神戸市勤労会館7階大ホール  
 ★冷酒の好き酒大会  
 毎週土・日曜日 沢の鶴資料会館  
 △須磨▽  
 ★ウィンドサーフィン神戸レガッタ  
 7月20日(火) 須磨海岸  
 ★辛家・須磨浦クルージング  
 8月下旬 須磨沖  
 ★海づり公園親子つり大会  
 7月21日～8月31日の毎土曜日 海づり公園  
 △ポートアイランド▽  
 ★プラネタリウムスズメシャルー七タコンサート  
 8月6日(土) 7日(日) 神戸市立プラネタリウム館  
 ★ポードピアランド・サマーフェスティバル  
 毎週土・日曜日 神戸ポードピアランド  
 △港▽  
 ★納涼神戸港めぐり  
 7月29日(金)～8月22日(月) ゆうかり・すずかけ  
 ★花火大会  
 8月上旬 ポートターミナル周辺  
 ★ポトルシップ展  
 7月17日(日)～31日(水) 神戸国際港湾博物館  
 ★鳴門うず潮観光展と阿波おどり実演  
 8月2日(火)～15日(月) 神戸国際港湾博物館  
 ★豪華外国観光客船見学会  
 7月30日(土) パールオブスカンジナビア号  
 △その他▽  
 ★神戸観光写真展  
 8月4日(木)～9日(火) さんちか広場ギャラリー  
 ★コミックパーティー  
 8月21日(日) サンパル7 F K O B B E 21 C  
 ★サマークルージングライブ  
 8月上旬 須磨沖  
 ★邪馬台国への道  
 8月25日～30日(火) さんちか広場  
 □お問い合わせ先  
 神戸市経済貿易観光課  
 電話 078-3311-8181

# 関西の新時代を拓く 神戸沖空港

伊賀 隆 （神戸大学経営学部教授）

柏井 健一 （柏井紙業株式会社社長）

三輪 吉郎 （神戸経済同友会代表幹事  
三輪運輸工業株式会社社長）

菱川 文博 （兵庫県企画部長）

柳瀬 俊郎 （神戸市長室長）

— 5月18日、神戸国際交流会館で「情報化時代を拓く神戸沖空港」と題したシンポジウムが開かれました。シンポジウムでは、国際化時代に向けての講演ののち、神戸沖空港についての活発な意見が交されました。今回は従来からこの問題にとりくんでおられる方々にお集まりいただき、さまざまな角度からお話をお願いしたいと思います。

## ★新しい展望をみせる神戸沖空港案

柳瀬 昨年6月に発表した「神戸沖新空港計画試案」ではポートピアの成功で実証した神戸市の人工島造りの技術をフル活用しながら「公害のない空港」をめざし、ポートアイランド沖、約4キロの海上に空港島を造り、飛行経路をすべて海上とし、海への配慮として漁業や船

の航路に支障がないように空港島への輸送手段として沈埋トンネルが考えられています。さらに空港の建設と運用については、官民一体となった第3セクター方式が提案されています。

58年度国家予算においてようやく泉州沖空港の建設が認知されましたが、神戸沖空港は都市空港としてぜひとも実現させたいという基本的な考え方は、変わっておりません。ご承知のように、泉州沖空港はまだ動き出していないという人もいますが、私は今の状態では実現に向かって泉州沖が動きだすためのお膳立ては半分以上できていますと考えてよいと思います。一方、神戸沖空港については、その立地性、機能性において泉州沖空港の補完をになうことになる、そういう位置づけが非常に濃厚になってきました。

柏井 たとえば、泉州沖空港から神戸沖までの海上距離は20キロです。これを高速艇で結ぶとわずか15分です。それだからこそ、両空港の補完のしあいの意義があると思います。

三輪 泉州の場合、滑走路は南北となるわけですが、泉州は西風が強く、離着陸に問題があると聞いています。神戸沖の場合、東西の滑走路が計画されていますので、泉州沖空港の構造上から考えても、相互補完ということが必要な問題だと思います。

伊賀 2つの空港で1人前というわけですね。

菱川 兵庫県としては、最新鋭の小型近距離航空機と小型空港を用いた地方都市相互間を結ぶ航空ネットワーク「新地域航空輸送システム」をうちだし、さらに兵庫県内を阪神、播磨、但馬、丹波、淡路の5ブロックに分けた県内ネットワークの構想を積極的に推し進めています。その拠点となる空港について、私は、泉州・神戸沖の両空港に次の問題があると思うのです。

1つは、泉州沖空港そのものが適当であるかどうかということ。これに対して、兵庫県では以前から疑問をもっていて、その疑問が依然として解明されない状態のまままだということ。これは近畿全体の発展をにらんだ、慎重な検討の結果、悔いの残らない計画として必要かどうか結論になればそれによいということです。

そうでなければ、改めてその位置、規模、機能について再検討を要することは当然でしょう。

第2点は、仮にも泉州沖空港がOKだという前提に立った場合に、神戸沖空港と共存できるかという点について



伊賀 隆



柏井 健一



三輪 吉郎



菱川 文博



柳瀬 俊郎

ては私は可能だと考えています。といってもこのことについては、将来の航空需要の伸びを考慮に入れて、2つのパターン、つまり、泉州沖と神戸の取り合せと、これに現空港を加えた取り合せが考えられます。ただし、現空港の入った場合と人らない場合については、まず現空港をどう扱うかということ、運輸省が責任をもち地元住民の意向をきいて、できるだけ早急に結論をだすことになっていきますので、その答えを待たなければなりません。

三輪 空港建設の重要性については、今や空港そのものが産業と密接に結びついていますし、アメリカの例のように、インナーシティとか、町と町を結ぶなどの、いわゆる「バス」のように身近な機関となりつつある時代ですから、今さらいうまでもないことです。それなのに、広い近畿に空港が現在1つしかないというのは、むしろ不思議な気がする。需要からいっても、空港の2つや3つはあってもよいのではないかと思う。それに、空港建設は国家100年の大事業というようなものではなく、もっと柔軟に考えられてもいいのではないのでしょうか。

伊賀 運輸省の方でももう少し柔軟性がほしいですね。菱川 何といたっても神戸は兵庫県の「核心」にあたる大都市であり、空港をもたない未来都市は考えられません。運輸省とは去年より20回ぐらい折衝をくり返してきており、運輸省側としても地元である兵庫県をさしおいて泉州沖を推進させるということは考えていません。地元の一つである兵庫の同意を得たうえで、円満に着工にもち込みたいわけです。だから、地元の意見無視の見きり発車はありません。運輸省も歩みよってきていますし、

果は果としての見解を訴えてきていますので、お互いに中途半端な妥協はせず、今後、率直に近畿における航空体系のあり方を中心に大いに話し合っていくつもりです。

伊賀 これは私の提案なのですが、泉州沖と神戸の両空港が完全に稼働しはじめた場合、航空機事故などの危険性をもっている伊丹現空港は全廃し、その代替機能として、ハイテク/ロジック産業の基地をつくるのが、最良の方法だと思っております。最近では熊本や大分、鹿児島など空港をもつ九州の各県では、最先端産業の誘致をさかに行なっています。神戸沖空港でも新産業の誘致を行なう一方、高度技術の集積基地として、伊丹現空港の跡地に学園研究都市をつくるわけです。その経済効果は、空港建設と相乗しあってかなりなものが期待できますし、私としては伊丹の方が京阪奈学園都市よりも、もっと素晴らしいものができると思っております。

柏井 大阪の一部の人の中には、泉州沖から神戸沖空港まで、海上でたった15分程の至近距離なのだから、国際とか国内空港とかの、泉州・神戸についての位置づけを難しく取り沙汰しなくてもよいじゃないか、いわば「共用的」なものとして広い視野で考えたらどうか、という意見もあります。両者間が15分の距離だからこそ、神戸沖空港が最大活用できるのだということですよ。

三輪 その点では、国に依存しない神戸方式は、とてもユニークな空港として、その真価が改めて見なおされる時宜がきたといえますね。

#### ★これからの空港づくりは、現地密着型

柳瀬 さきほど泉州沖と神戸との補完に触れて少し話が出ましたが、伊丹現空港をどうするかという重要な問題が残っているわけです。現在は存廃問題がさかんに議論されていますものの、問題はそう簡単なものではありません。神戸市は、従来、伊丹現空港と神戸沖との補完のしあいを述べてきましたが、ここで少し次元をかえて泉州沖との補完への方向も意識せざるをえないと思いま

す。もちろん、伊丹現空港の存廃は非常に神戸にとって重要なポイントです。

菱川 このことについては、2つのステップが考えられます。第1のステップは泉州沖空港の着工が仮にOKとなったとしても、効率的作動までは長期間を要することは避けられず、少なくとも当面の間、現実問題として現空港は存続します。現空港へは50ヶ国が乗入れの順番を待っており、現実には9ヶ国しか入っていません。差し迫っての近畿の活性化と国際化の為に、それら諸外国の申込みを受け入れるとなると、国際便で充実していく必要が先行するわけです。そこで環境問題をさらに前向きに処理しつつ国際便を現空港でまかない、国内便は神戸沖で引き上げる。神戸沖空港が早く認可され、工事着工が可能となれば、この国際便と国内便とのコンビも円滑に行きます。次のステップは現空港の存廃について、運輸省の結論にかかりますが、もし現空港存続となり、かつ泉州OKとなれば、長期的には泉州と神戸沖とを加えた3つの取り合せて近畿の空を守ることになります。反対に現空港を廃止するという結論になれば、泉州・神戸の二つのコンビを考えなければならぬということです。そのためには、技術的な面において大阪湾で2つの空港が安全に作動できるかどうかという問題が優先しますので、果としては、アメリカの航空専門コンサルタント会社に委託して調査を重ねた結果、現段階では可能であり2空港併存大丈夫という結論になります。今、私の申し上げたことは、長期的にも当面的にも近畿にさらに多くの地方空港が必要であるという果の主張を一応この際、捨象して、議論を分りやすくするため焦点の三空港にあえてスポットをあてたことをお断わりしておきます。

柏井 泉州沖空港の滑走路が予定していた3本のうち1本、つまり、一期工事分について現在論議されているようですから、そうなるかと神戸沖空港の滑走路1本は、コンビとして大切な意味もっています。

伊賀 もとより泉州沖空港は利便性が低くて経費が高くつき、採算があわないといわれてきたわけですね。しかし、実際のところ、伊丹現空港の拡張は不可能であり、それでもなお関西経済の浮上のためには、空港がぜひとも必要ということには自明の理なので、必然的に神戸沖空港がスポットをあびることになります。

柳瀬 成田空港の例を見まして、一般的に成田が失敗とされる点は、やはり地元住民とのコンセンサスの不徹底と利用客にとってのアクセスを熟慮したうえで、構想でなかった点にあります。今頃になって、羽田空港転換への議論もおこっているというしだいですから、関西新空港についても、あくまで現地密着型の空港プランをたてる必要がありますね。

伊賀 そのうえで、私は、どちらが、国際か、国内という区別をもうけず、神戸沖空港は、泉州沖をバックアップする素晴らしいパートナーとして、関西全体の活性化の起爆剤となつてほしいと思います。

#### ★神戸沖空港は新たな発想に基く空港

菱川 私は、神戸沖空港が、海上空港であるため内陸の空港とちがって、決して安い空港だとは思いません。その安くない空港で採算をとるためには、まづかなりな便数の飛行機を離着させる必要があるでしょう。長期的な観点でみて、泉南と神戸沖、場合によっては現空港を含む3つが、共に採算のとれる形の中で共存ができるという点が不可欠です。神戸沖空港の検討についてはこの点をしっかりと見据えていくべきだと基本的に考えています。

柳瀬 空港の採算については、何よりもその位置が航空需要の集中発生地にあるかどうかにかかっています。

この点、神戸沖空港は人口の集積するところに位置するわけですから、地方のローカル空港とちがって、採算事業としてやっていけるだけの条件をもっていると、基本的に考えています。ただ、空港周辺への環境に配慮す

ることが大事ですから、海上に建設しなければならず、大きな投資を必要とするので、建設コストをできるだけ低く抑えろとか、商事部門や他の収益を積極的に取り入れていく工夫が必要ですよ。

欧米では、ニューヨークには3つ、パリにも3つ、ロンドンには4つの空港がありますが、それぞれにいろいろ工夫しながら採算性を確保しています。

伊賀 国内便と国際便とは、発着料がずいぶんちがいますが、国内便だけで計算した場合の採算はかなりきびしいのではないですか。

柳瀬 確かにそうです。しかし、現在の構想では建設費を国に補助してもらわなければなりません。また、神戸市がなぜ自前空港を主張しているかというと、国庫補助の申請はおびただしい数に及ぶわけで、初めから国の補助に頼るとなると、空港実現の話知はいつのことになるか予想が立たなくなるからです。

柏井 神戸沖空港の最大のポイントは、国の力にたよらないで、基本的に地域の力でやっていこうとするところにあるわけですね。

菱川 神戸市で現在考えている「自前で作る空港」は、国から補助をもらわず、国からの一部の借入れ、大幅の外債それに地方の出資で、建設費をまかなっていくという「地方の時代」にふさわしい地元主導による空港作りが主旨ですから、それは評価されるべきだと思います。県としては、神戸市がさらに細かい部分を精査した後の最終案についてのご相談を待っている段階です。その間県でも運輸省との折衝を続けつつ、一方で幅広く空港整備、航空体系の研究を進めています。

柳瀬 国の貸付については、建設省による有料道路建設などについての貸付制度があるわけですから、そのような例にならって神戸市は利子のかからないお金を導入して空港を作ろうというわけです。

柳瀬 現行の制度では空港建設というのは、国家的な水準での事業という考えから、第1種空港で100%、第2種



なら75%の国庫補助金の援助があるわけです。そのような考え方からすると、第2種レベルの拠点空港と位置づけられる神戸沖空港は補助金でなく一部借入れ金によって建設しようとしているのですから、まさに画期的な構想なのです。それだけに運輸省の方もそれを配慮して認めていただきたいと考えているのですが。

伊賀 運輸省にとっては、かつてないプランが出てきたという感じで受けとめていると思いますが、これを評価しないというのは私には不思議に感じます。アメリカの航空行政をみても、ずいぶんと自由化が進んでいます。日本でも、アメリカのように民間の意見を積極的に採り入れて効率の高い空港を実現させてほしいと思います。

---

### 田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市中央区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

---

### オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉  
神戸市中央区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

---

### カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三  
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807  
センタープラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

---

### 株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市中央区三宮町1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

---

### モロゾフ株式会社

代表取締役会長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

---

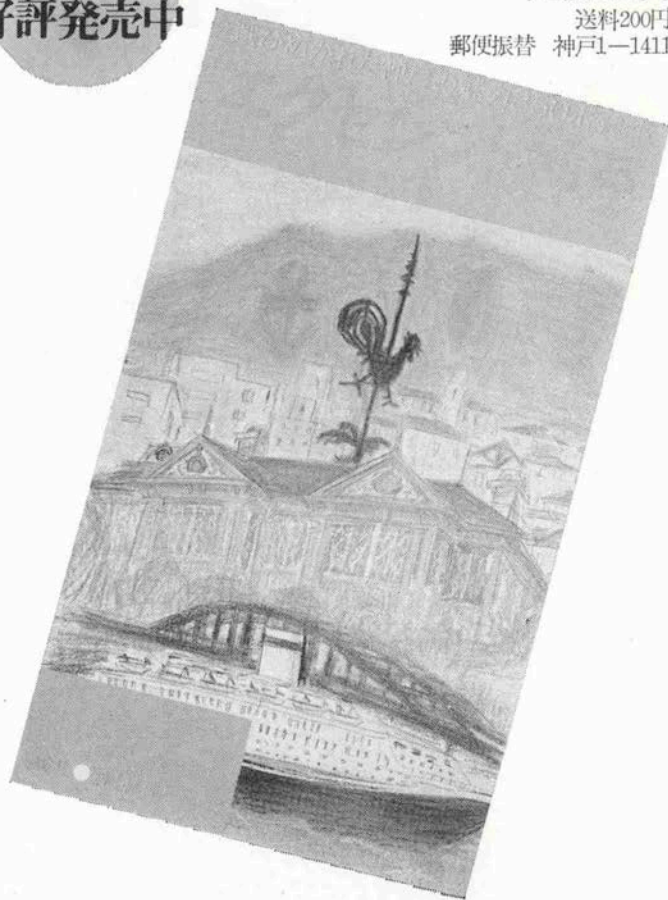


キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の  
企画は以上5社の提供によるものです。



市内有名書店にて  
好評発売中

ハンディタイプA5判変形  
全108頁  
定価250円  
送料200円  
郵便振替 神戸1-1411



# エクセレント神戸

東西の文化の光が織りなすエキゾチックな港町が神戸です。その神戸のエスプリともいえる選びぬかれたエクセレントシヨップが350店、宝石のように散りばめられたのが「エクセレント神戸」です。神戸を訪れる人にわかりやすく、もっと手軽に、そしてもっと美しく、と「エクセレント神戸」をユニークな手帳に仕上げました。各店の今の情報が満載されたこの本で、あなたも即、神戸通に。

350  
EXCELLENT  
L.K.O.B.E

お問い合わせ、お申し込みは 〒650 神戸市中央区江戸町100高砂ビル5F コミュニティサービス ☎078・392・0200

## 経済ポケット ジャーナル



★神戸コンベンション時代の「いよいよ神戸もコンベンション時代です。国際会議場・展示場の利用が、2千件達成ということは、夢のような出来事で、都市間の競争激化の中で非常に幸先がいい。市長も2千人ホールと、展示場を増設し、ワールドの記念ホールを1万人収容の施設にと計画中。コンベンション時代への方向



2000件目の表彰

は大胆に、道程は着実に進みたい」と、5月27日に、国際会議場、交流会館、展示場などの2千件達成パーティーで宮岡助役は自信満々

の挨拶。2千件目の日本楽器山川支店長と、最多利用66回の東亜医用電子が、記念品を受けた。社内会議をここで開くとグッドアイデアが生まれるそう。

### ★白鶴酒造が若返り



嘉納秀郎氏  
義塾大経済学部卒、同年三菱商事

新社長に嘉納秀郎氏が  
嘉納正治社長の会長就任に伴い、嘉納秀郎常務が新社長に。嘉納秀郎氏は昭和34年度慶応

### ★アシックスが合併5周年

昭和52年にオニツカ靴、靴ジイテイオ、ジェレンク靴が対等合併し、総合スポーツメーカーとして靴アシックスが誕生して以来、今年で5年目。その合併5周年記念謝恩パーティーが、5月6日神戸ポートピアホテ

ル借楽の間で開かれた。

鬼塚喜八郎社長は「アシックスの発展は労使の協調



挨拶する鬼塚社長

にある」と挨拶。またこの

2月鬼塚社長が叙勲を受けたオーストリア共和国功労大銀章も披露された。

### ★高嶋酒類食品が50周年

甲南漬で知られる高嶋酒類食品株が、5月27日、株式会社創立50周年を記念して、謝恩祝賀会を開いた。また古稀を迎えた高嶋平



高嶋良平社長

介社長が会長に、高嶋良平氏が新社長に就任。「伝統

### ★KOBEOフィスレディ★



入社3年目だが、販促の仕事はまだ1年半ほど。キャンペーンやイベントのプランニングが主な仕事だそう。野次馬精神旺盛、ひょうきん族、ものおじしない性格と、プランナーとしての性質は完璧だ。「2人で何かを創造していくような男性」を募集。関西学院大学文学科卒。KFSのメンバーでもある。

千珠さん(24)  
△モロゾフ靴V

を守りつつ、若い感覚で飛躍したい」と語る新社長の意気込みに期待がもてる。  
★靴パールの本社新社屋が完成。5月14日から始動  
窓からのたつぷりの彩光など、ファッションメーカーらしく明るくセンスフルな靴パールの本社落成披露が5月10日行なわれた。当日は設立20周年に当たり、「ファッション文化向上の一端を担う者として益々頑張りたい」と語る、松岡賢蔵社



意欲を語る松岡社長

長を囲み、KFT、KFAなどのメンバーが新しい飛躍を祝った。  
■新住所／〒651神戸市中央区生田町3丁目7 078-1231-3333